

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2795000054		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから吉田本町		
所在地	大阪府東大阪市吉田本町2-2-12		
自己評価作成日	平成27年4月1日	評価結果市町村受理日	平成27年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階
訪問調査日	平成27年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の心身の状態の変化に応じて家族様と職員がその都度話し合い、医療的な事柄は主治医から家族様に説明、話し合い利用者様にとって安全で快適な環境が作れるよう努めています。また、毎日曜日に行う行事やレクリエーションを通して利用者様の個性に合わせて役割を持って頂き生きがいのある生活を楽しんで頂けるよう努めています。また、気候によってですが出来るだけ少しの時間だけでも外気浴をして頂きたいと順番に外にお連れしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点として、管理者、ケアマネージャー、リーダーを中心に職員の結束を図り、職場の人間関係が良好なことがあげられ、職員の定着率も良い。職員は、ケアプランのサービス内容を毎日モニタリングし、毎月の評価と、計画の定期見直しのサイクルが定着していることが、利用者本位の個別の支援に結び付き、利用者・家族の安心と信頼にもつながっている。長期の入居者が多く2ユニットとも満床である。隔月に、利用者の生活や健康状態等を職員が分担して手書きしたお便りを、写真も添付して送付して報告しており、運営推進会議には家族の参加が多く、年2回食事会も兼ねて家族同士の交流も図るなどの、家族へのきめ細かな対応もしている。工夫点は、食事を事業所調理担当がつくり、味付けや食べやすさに配慮するとともに、毎日曜日は利用者の希望を入れて、一緒に食事作りを行って、食の楽しさに応えていることがあげられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域における家庭的な環境とケアサービスの提供、地域からの信頼を構築していくことを方針にし事業所に掲示している。職員一同理念を共有しながら行動につなげようとしている。	事業所理念を「地域に根差し地域と共に互いに支える生活を提供していきます」と定め、事務室に掲示して、管理者、職員は地域密着型サービスとしての自覚を高め、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や日常行う近隣での散歩で交流をもっている。買物は近隣の店舗を利用している。	自治会に加入して、地域との連携をはかり、行事・や防災訓練などに参加している。日常の散歩や買い物などでの地域とのつながりや、花・音楽療法・マジックなどのボランティアによる訪問による楽しみごとの交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話で介護に関する相談に応じたり、地域住民に向けた施設見学の場所として提供している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の状況の報告、取り組みをお話している。家族間での話し合いの時間もほしいとご希望があり、活発な交流の場になっている。そこから頂いた意見をすぐ実践できるよう努めている。	会議は隔月に開催し、利用者家族、地域包括担当者、地域代表、管理者・職員等の参加で、運営や利用者の状況、行事など報告し、参加者の意見もあり、運営に活かしている。家族の参加は比較的多いが、地域代表の参加が少ないことと、グループホームの知見者の参加がないことが課題である。	理念に地域との連携を謳うが、自治会関係者の欠席が多いので住民代表の枠を広げて参加を呼びかけることも考慮されたい。公正中立な知見者として、他のグループホームの関係者に依頼し、相互参加を図るのも有効な取り組みである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業者連絡会や研修会に参加している。	介護保険関係の申請代行で高齢介護課を訪問したり、業務や研修等に関する連絡もある。生活保護関連の届け出で毎月福祉事務所に訪問し、担当職員と連携を保っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の資料を共有している。日々の業務内容が身体拘束に当たらないか確認しながら実施している。	玄関は施錠しているが、1・2階の出入り口は自由に行き来でき閉塞感を解消している。利用者の外出希望には職員同行で支援し、意向に沿えるよう努めている。管理者は職員に、身体拘束の弊害と、本来玄関施錠も該当する旨の理解を深める研修の充実を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の高齢者虐待の研修に参加し、日々の業務で虐待につながらないように意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、必要な入居者様には社会福祉協議会と連携をとり活用できるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・改定時など納得や理解が得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日常のなかでご家族から頂いた意見から改善したことは、会議録と合わせて地域にも公表している。意見箱の設置をしている。	2カ月ごとに各利用者の状況を、職員が手書きして家族に郵送して報告している。運営推進会議に家族の参加が多く、意見や要望を聞くとともに、会議の後、年2回食事会を行い家族同士の交流にも取り組んでいる。家族の面会や、電話連絡の際に家族の意向も聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や本社での会議で意見交換ができ、毎日の業務でも意見交換は活発に行われている。	管理者は日常のケアの場での意見や提案を、直接またはリーダーを通して聞いたり、月次の職員会議で話し合う機会を設けている。意見の出しやすい職場環境作りに取り組み、職員からの要望提案を本社に具申して、リクライニング車いすを購入しケアに役立てた例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の勤務形態を把握し、長く働ける状況をつくれるよう必要時には話し合い変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の状況を把握し、順番に研修に参加し業務内容の改善に努めている。個人が仕事の質を向上していけるよう目標設定をし管理者と話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東大阪市の事業者連絡会に入会し、定期的に勉強会に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時から、御本人と面談をし信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場での思いを傾聴し、介護の環境について細かく話しあい、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族にとって、どのような環境での介護が適切であるかを話し合い体験入居によっても見極めの材料とし話し合いを重ねている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のなかで、共に家事を行い互いに助け合える環境を作っている。無理強いせずにお手伝いをして下さった後感謝の言葉を添える		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話でご本人の状況を細かに伝え、共にご本人の生活を支えるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人のや元職場の方の訪問があったり、ご近所にお散歩行かれた時に近隣の方や子供さんに声を掛けられている	近隣で暮らす馴染みの知人や会社の元同僚の訪問などがある。以前から利用している、近くの図書館や馴染みの店に行ったり、要望があれば馴染みの場所を訪ねる体制を取っている。ホームでの入居者同士の馴染みの関係も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話がすすむよう環境を整える毎日の生活の中で反りが合わない様子などがあれば今までの関係を損なわないように注意し席替えを試みる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も情報提供をおこないご家族の不安に支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で御本人の気持ちを聴き、思いを言葉にできない方には表情などから気持ちを感じ取り快適な生活が送れるよう考えている。	本人、家族から生活歴や暮らし方の希望・意向を聞いてプランに反映している。1対1で関われるケアの場などで、本人の思いを聞いている。意思の表出が困難な方には、表情や態度、行動で判断したり家族と相談して、本人本意に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族や関係者から聴いた情報と、日常の会話の中からわかっていくことなどを共有して介護に生かしていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、安定した過ごし方を把握し職員が共有して支援しているまた、変化が出現する毎に相談しながらご本人に良い方法を模索する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や日常の生活から見出した情報と職員全員の意見から介護計画をたてている	利用者の状況を各職員が記入したシートを参考にケアプランのサービス内容を作成し、実施状況を職員が毎日モニタリングして計画作成担当者が月次で評価し、サービス担当者会議で利用者個別の状況を検討している。計画の見直しは定期は6ヶ月を基本に状況変化時、更新時に行っている。計画作成担当者はアセスメントの見直し充実を目指して、様式の検討も考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りなどや日々の変化を把握し日常の様子を個別に記録し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の心身の状況に応じて、適した方法を選択してる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している（ふれあい祭り・防火訓練など）また、散歩や年二回のお花見や遠足などに行き地域の方とふれあいもある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて受診されており、提携医療の説明をし選択できるよう支援している。	現状は、従来からのかかりつけ医（精神科）を受診の利用者1名の他は提携の医師の月2回の往診を受診している。歯科は週1回の往診があり必要な方が受診している。家族の外来受診同行が困難な方には、依頼により送迎支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化があった時は、看護師にすぐ報告し適切な医療が受けられるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・入院中にご家族と共に病状説明を聞き、早期に退院できるよう話し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の、その後方針について話し合う場があることを知らせている。	入居の契約時「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明し書面同意を得ている。重度化時には終末期の医療に関する希望をアンケート形式で確認し同意を得ている。開所以来、ホームで終末期ケアや看取りの事例はないが、管理者は今後要望があれば、医療・看護・介護の連携でターミナルケアも志向している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を実施しており、運営推進会議でもはなしあっている	年2回、法定の防火避難訓練を実施している。昨年度は夜間想定と地震想定訓練を行った。スプリンクラー、自動火災通報設備、消火器を設置し、備蓄品の準備もある。設置の感知器の誤作動で職員が対応できずセコムが来て原因究明するヒヤリハット騒動もあり、緊急時対応の必要性を認識している。	法定訓練の実施と設備等は整えているが、想定外の災害対応など日ごろの備えが大事である。緊急時に全職員が具体的即応が出来るように、定例会議や勉強会などの機会に、短時間の机上想定やミニ訓練などの頻回な実施を期待したい。

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護拒否等ある時は時間を置いたりまた違った職員が声掛けをすなど工夫し身体介護時などプライバシーが守れるよう注意している	日々の支援の場での声掛けや言葉遣いに注意している。利用者の人格を尊重した対応については、馴れや親しさからの呼称や対応に乱れないよう、管理者は職員に接遇マナーを指導徹底している。排せつや入浴介助の際など、プライドに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の意見を聞きながら進めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人のペースに合わせて過ごしていただいております。食事や入浴にかけける時間も決めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人に衣類を決めていただいたり、お出かけされる時にこの洋服にされますか等援助もする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けを一緒に行い、食事も同じテーブルで食べ和やかな雰囲気にも努めているまた、美味しかったと褒めて下さる	業者配送の食材を、調理専門職員が調理している。職員も数名、摂食の介助をしながら同じものを食べている。毎日曜は事業所で職員と利用者が一緒に、ジャガイモの皮むきや炒め物など食事作りをして、食の楽しみに取り組んでいる。たこ焼きや、おやつにどら焼きなども皆で作る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態にする。水分不足にならないよう把握し声掛けで促し援助している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、うがいと、定期的な義歯洗浄を実施している。必要な人は歯科往診を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにあわせて声かけや誘導を行っている。	健康管理表の個人別排泄記録で、夫々の排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を心掛けた誘導、見守りを基本にした支援に努めている。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。現状は、布パンツの利用者が5名、おむつ着用が1名、その他の方はリハビリパンツ使用である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量を把握し足りない方などはお好みの飲み物や週二回のコーヒータンクに飲むヨーグルトを提供した、運動ではラジオ体操などを促し、チェック表により排泄状態の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な回数は設定しているが、御本人の気分や状態に合わせてすすめている。	週3回の入浴を基本としている。拒否の方には職員を変えたり、時間や対応方法を工夫して入浴を促している。座位保持が困難で、浴槽に入れない利用者には、家族に説明し了解のうえでシャワー浴での対応の場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが好きな時間に寝て動けるよう配慮している。夜間眠れるように昼間の活動時間を考慮することもある。消灯・起床時間は決めずにそれぞれの時間で過ごしていただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての薬の周知ができているわけではないが、日常生活に注意のいることや薬の内に変更があったときは全員に申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意な掃除や食器洗いなどの家事の役割が決まっていたり、好きな遊びを楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて散歩に出かけている。家族様が面会に来られた時なども散歩に出掛けられることもあり花見など行事にも家族様にご参加頂くこともある等し外出の支援をしている。	天候や体調に合わせて、近隣の公園の散歩や、スーパー、コンビニに出かけたり、図書館に本を借りに行くなど、職員同行で支援している。家族と定期的に外食に出る利用者もいる。四季の行事で遠足などの楽しみな外出も企画している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の預かりはないが、自分で支払いたい方には配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方は手紙が出せるよう支援し、電話もご家族と相談の上使っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした広さと柔かい照明でくつろげる雰囲気をつくり、季節が感じられる壁画や日本の昔ながらの行事の貼り絵等を貼り出して楽しんで頂いている	玄関のホールを入ると廊下を挟んで手前と奥に居室、トイレ、浴室が配置され、中央部にリビング兼食堂とキッチンがある。リビングは両側から差し込む光で明るく、窓外のテラスには憩えるスペースや物干し場がある。ソファを置き、壁には利用者の作品や行事の写真などが飾られ、共用空間は居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	グループや一人で過ごす場所がほぼ決まっており、御本人が居たい場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物の制限はなく御本人の希望に応じて家具などを置かれている。	居室にはエアコン、ベッド、ナースコール、カーテン、クローゼット、洗面台が配置され、1階は掃き出し窓、2階は腰窓からの日差しが明るく、隣接の野菜畑が望める。利用者は仏壇、テレビ、タンス、家族の写真等の馴染みの品を持ち込んだり、本人の作品や花なども飾って、夫々居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人が出来ることは事故がないよう見守り、自由に生活をしていただく。		